

山本賢二

## 1 自己紹介

山本賢二といいます。1948年9月26日生まれ、73歳です。京都府福知山市字長田市に住んでいます。妻と二人暮らしです。職業は、教員を退職し畑の耕作（ソーラーシェアリング）をしています。2016年9月に結成された福知山再生可能エネルギー市民研究会（FSK）の事務局長をしています。

## 2 福知山市原子力災害住民避難計画の問題点

### 【対象範囲が狭い】

福知山市の避難計画は策定されていますが、それで安心できるものでなく、そもそも机上の計画です。福知山市原子力災害住民避難計画（平成25年2月策定、平成25年8月改定 平成29年3月改定 令和3年7月改定（甲604号証））の最大の問題点は、「計画の基本対象」として「避難範囲は高浜発電所から半径概ね30km圏内を基本とし」ており、とても対象範囲が狭い点です。私が調べたところによれば、UPZ 圏内の半径概ね30km圏内には、5自治会186世帯415名の方が住んでいます。しかし、福知山市民は、約7万6000人であり、同計画では、福知山市民全員の安全を守ることはできません。

### 【大飯原発を対象としていない】

福知山市原子力災害住民避難計画2頁に「防護措置の判断基準と対応」について書いてあります。しかし、「高浜発電所において事故が発生した際の避難等にあたっては、原子力規制委員会が示す次の判断基準に基づき、国、京都府等と連携して適切に対応するものとする。」と書かれているだけで、大飯原発の事故については、全く記載されていません。福知山市民の中には、大飯原発から50km圏内に住んでいる方もおられます。私自身も約50kmの地点に住んでいます。仮に、大飯原発で事故が起きた場合、この計画では、私も含め福知山市民は、避難の対象とされません。一体どのようにして福知山市民の安全を守るつもりなのでしょう。隣の舞鶴市原子力災害住民避難計画では、大飯原発で事故が起きた場合についても記載されています。なぜ、福知山市原子力災害住民避難計画には、大飯原発の事故について触れられていないのでしょうか。

事故が起きた時の「全面緊急事態」の指示・行動例がマニュアル化されていますが、このマニュアルは、机上の空論です。

仮に、大飯原発で事故が起きた場合に、この計画が適応されたとしても、次に述べるとおり、この計画は、全く役に立ちません。このような計画で、万が一の原発事故を受け入れなければならないことについて、私は、納得できません。

### 【避難先について】

市の計画では、避難先として「市の武道館」及び「三段池公園総合体育館メイン・サブアリーナ」が指定されています。市の武道館は、銃剣道の大会等大きなイベントが開かれています。総合体育館は、様々な競技が行われています。これらの場所は、通常で

あれば、人が集まりやすい場所ですが、原発事故が起きるといふ緊急事態における避難場所として、本当に適切ななのかの検証がされているのでしょうか。

大飯原発は高浜原発のすぐ隣です。これらが連続的にあるいは同時に重大事故を起こしたら目も当てられません。指定避難場所の市の武道館及び三段池公園総合体育館は、UPZ 該当 5 自治会だけでなく、舞鶴市・宮津市などの緊急避難所に指定されているのです。果たして機能するのでしょうか。異なる自治体ごとの調整が、現実的に出来るのでしょうか。

### 【避難先への移動手段】

避難先である「武道館」「三段池体育館」に移動するために、UPZ 内 5 自治会の住民は、地区内の 6 カ所（体育館・公会堂）に集合し、そこからバスで移動します。地区内の 6 カ所の集合場所まで、原発事故が起きた際に、迅速に移動が出来るのでしょうか。

有路下体育館（地区内の 6 か所の一つである）から三段池体育館までバスで 40 分ほどかかります。また、高津江・三河の公会堂（地区内の 6 か所の一つである）からは国道 175 号線を利用し市道広小路勅使線→市道上荒河観音寺線→市道醍醐寺線→三段池体育館となっています。時間にして、25 分ほどかかります。

事故発生時が、天気がよく、昼間で、平日曜日の好条件とは限りません。最悪の場合、避難ができないことも予想され、計画通りには行きません。大江町を通る幹線道路は冬期の積雪とともに避難路としては不安だらけです。洪水時には潜没橋として通行止めになる橋もあります。

### 【避難経路や公共施設の機能喪失】

仮に、避難先に到着できたとしても、問題は山積みです。

避難先に集まることが出来たととしても、そこでスクリーニングを行い、バス等で次の避難所（それは兵庫県赤穂郡上郡町上町スポーツセンター）へ避難します。UPZ 以外の住民はどうかといいますと、まずは通常の広域避難所へ移動します。次に同じく上郡町のスポーツセンターへ移動することとなっています。移動においては、市原・二箇下・二箇上の施設からは、府道 55 号線を利用します。

福知山市、とりわけ由良川下流域に位置する大江町では、度々の大水害に見舞われています。1 例として直近の 2018 年（平成 30 年）7 月豪雨では大打撃を受けました。大江町では、床上浸水 81 戸、床下浸水 71 戸でした。道路の冠水で通行止めは各所ありましたが、避難経路となっている広小路勅使線、上荒河観音寺線が冠水、市の公共施設の大江支所、大江子育て支援センター、図書館大江分館、大江町総合会館は、床上浸水の大被害でした。勿論、宮津方面から大江山越えの府道も崖崩れ等で通行止めもあり、避難は不能となってしまいます。こうした気象条件では、避難計画はまさに机上の計画になってしまいます。

### 【ヨウ素材配布の問題】

更に、重大事故時には福知山市民病院（武道館まで 4.04 km）と大江分院（分院から武道館まで 13.78 km）に備蓄してある安定ヨウ素剤の配布・服用を受けることになっていますが、とても現実的ではありません。仮に休日で幼児から中学生まで全員が自宅いたとしても、その配布はスムーズに行くのでしょうか。平日ならば配布・診療体制はどうなるのでしょうか。曜日、時間帯、天候、季節により大きく条件が異なり、果たして

子どもたちに配布・服用が確保されるのか保障はありません。

### 【水の汚染問題】

他にも大変危惧することがあります。UPZ 圏内の二箇下地区に舞鶴市二箇取水場（飲み水）が、二箇上には舞鶴市有路補助取水場（飲み水）の 2 カ所の舞鶴市民の大切な飲料水施設があります。もし放射能が拡散された場合、これらの施設は汚染されることになり、舞鶴市民にとっては恐ろしい事態となります。

### 3 最後に

福知山市など自治体には「避難計画策定」が課せられています。「机上の計画」ではあっても立てないといけないのです。そんな無茶を強いているのは国と電力会社・関西電力です。関西電力は避難時に情報発信以外何の役割も果たさないのですから。事故によるいのちと暮らしの危険性に向き合わず、ひたすら再稼働、しかも 40 年超の老朽原発をも利益を優先して動かしている、また動かそうとしていることはやめるべきです。

福知山では、市の公共施設は自然エネルギー100%の電気が利用されています。2019 年に自然エネルギー100%供給の新電力「たんたんエナジーKK」が生まれました。「電気は再エネで」「原発の電気はいらない」「SDG s と原発は相容れない」そんな思いを強くしています。私の所属する FSK では「脱原発・原発ゼロ・原発は廃炉に」を一歩進め、自分たちで出来ることを、出来るところからと、営農と発電の両立をめざす「ソーラーシェアリング」に取り組んでいます。ソーラーシェアリングは全国で 2,653 件 742ha で取り組まれています。日本には畑だけでなく水田が沢山あり再エネ発電の普及は爆発的可能性があります。原発の電気はいりません。

最後に、裁判所におかれましては、公正な、そして歴史に耐えうる判決を出されるよう御願ひし、私の陳述を終わります。

以上